

# 会報

1984/NO.8

昭和59年10月27日発行

長野県建築設計監理協会

長野県建築設計監理協会事務局＝  
〒380 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館



## も く じ

---

大臣勧告の完全実施に向けて……………南島 宗市……………	3
設監協NEWS……………	4
塩田平「鎌倉文化の遺跡(三)」……………上田市観光課……………	5
建築紀行「スキャンセンに……………」……………小松 蒼……………	6
《会員事務所作品紹介》……………(有)坂本建築事務所……………	8
テクニカルシート…TSサンド・中空スラブ……………	10
業界チャンネル……………	12
ずいひつ◇……………『さわやか信州』……………	13

### ■表紙 仁科神明宮社殿（国宝＝大町市）

平安時代から置かれた伊勢内宮の御厨（みくりや）、仁科の御厨にまつられた神社で、古来仁科66郷の総社と言われていた。社殿も神明造りの古式を伝え、右側の本殿と御門屋、及びそれを連結する中央の釣り屋が国宝に指定されている。

# 大臣勧告の 完全実施に向けて 南島宗市



〇〇士、△△士等、国家試験によって資格を得て業を行っている人は非常に多い。職業はもっと細分化、専門化される傾向にあるから、さらに増え続けるものと思われる。建築士もそのひとつである。

昭和25年に建築基準法と建築士法が制定されて以来、現在までに50余万人の1級及び2級建築士が誕生している。第2次大戦後に制定された比較的新しい法律だが、施行以来35年が経過した。その間建築士が自らの資質の研鑽と技術の向上に努め、職能を存分に駆使して、建築の技術文化の面から日本の復興と繁栄に大きな功績を残して来た事は、大変嬉ばしいことである。

建築基準法に建築物を建築する場合には、着工前にその計画を特定行政庁に申請して確認を受けなければならない、と定められている。「確認を受けなければならない」というこの部分はいつも気になるところである。人命に直接深い関係のある医者も、国家試験を経て医師として認められている。ただし自らの強い信念と責任に基づいて診断し、治療し、投薬をしている。弁護士も司法書士も、また同じである。建築士とは「資格者」の重みが違うように思えてならない。「確認を受けなければならない」という条文は改正できないものだろうか、と自問している。

以前ある係官とこの話をしたことがあった。確認申請書で完全なものは少なく、指導を受けて手直しをして再提出する申請書の方がはるかに多い現状だ。現在でも違反建築物が数多くあるのに、確認を廃止した

ら違反建築物が続出して大変な事になるのではないかと心配していた。建築士とは何と信頼のない、信用の薄い資格者なのかと、情ない思いがした。これはごく一部の建築士のことだと信じたい。その係官も1級建築士であった。

またある公立病院の院長と、院長の恩師である大学教授と座を共にする機会があった。教授に、「医者は保険制度があり、誰でも点数により基準単価が定められているので収入も安定していて、我々からは大変羨ましいですね」と云ったところ、「君、それは違うよ。日本一といわれる医者も、僕も、開業したばかりの医者も、1点は1点で皆同じだよ。画家、書家、陶芸家を見たまえ。名声ができれば同じ絵でも何十倍、何百倍と値段が違ってくる。医者はそんなわけにはいかないから、少しも良くないよ」と言われた。なるほどと頷けるような気もしたが、ダンピングが当たり前のように横行し、「安ければ良い」の考えが発注者側に定着し、疑似コンペに振り回されている設計業界に比べれば、やはり羨ましいと思った。

設計、監理業務に関する建設大臣勧告が出されて久しいが、無きに等しい位に活用されていないのは大変残念だ。一朝一夕にはいかない色々の問題があるのかも知れないが、職能人として知識と技術の研鑽に努め、さらに人格と品位の高揚に励むことにより、一步一步社会的信頼を得られるものと思う。士法25条大臣勧告が我々のものとなり、基準法第6条の条文が改正される日の訪れることを切に願いたいものだ。

(桂建築設計事務所所長)

## 第一回会員所員部会開かる

第1回会員所員部会が9月22日、松本市グリーンホテルで開催された。同部会には、所員を中心に理事がオブザーバーとして参加した。

宮本会長は冒頭「所員部会の必要性和所員同志の横のつながりを強めるための自由な会であってほしい」と抱負を述べた。

この後、所員だけの話し合いでは①正・副部会長は個人で受けることはできない（多忙なため会議に必ず出席できるとは限らないため）②各事務所単位で幹事を決める（各事務所所員に浸透し輪も広がりやすい）③同一地域で正・副部会長を決める（集合しやすい）一の3点を決めた。

初代部会長については松本地区の四事務所で話し合いの席を設け、部会長を選出してもらうこととしている。

運営方針では①技術交流会への参加②会員所員名簿の作成③創作活動の場としての職場の環境づくりなどを活動方針とし、また諸行事として、講演会・見学会・会員の作品展や総会に参加すること、会報も所員に担当してもらうことなどを決めた。

なお各事務所所長から「設計業務をめくり、不条理を感じている諸問題に対し、若い所員の新しい力に期待する」との意見が出された。最後に賛助会部会長、松本地区の賛助会員も出席し、フリートーキングを兼ねた懇親会が行われた。

## 創立10周年に向けて

### ——連合会、各単位会の動き

日本建築設計監理協会連合会（以下設監連）では来年度創立10周年を迎えるにあたり、今年度の委員会活動に活発な動きがみられる。

#### 総務委員会＝山崎委員長・東京（6月）

総務委員会では活動が連合会の中心的役割を果たしていることを確認したうえで、①対外的にも力をつけるべきだが、現状は守備固めを中心にしていく②設監連活性化のため、単位会と連動し支援する③連合会の法人化問題を内部で検討する等を決めた。

#### 広報委員会＝吉江委員長・東京（7月）

内容は①総務委員会の目標「会勢の拡張・活性化」に対応した文化講演会の開催②高知設監での企画・内容等の検討③連と単位会の考え方の統一④設監連の案内パンフレット等を作成する案について。

#### 設計入札問題検討委員会＝森園委員長（7月）

内容は①東京・神奈川・千葉・静岡・大阪・京都の各委員から、受・発注方式の実態調査（アンケート）の進捗状況報告②指名参加願いの制度改善策を検討③設計報酬問題と設計入札制の同時検討について。

#### 建築家協会との第9回合同委員会（7月）

日本建築家協会側から沖担当理事ほか六委員と設監連側から森園委員長ほか六委員が出席。協議内容は、①設計者の選び方②受・発注方式アンケートの件③報酬について、等。

#### 法制委員会＝池谷委員長・東京（7月）

内容は①建築士法改正特別委員会と業務法制定推進本部等を一本化して同委員会を設立した旨を説明②中根委員（静岡）からの報告（日本の建築関連の法律は国際的にみて大分ズレていると世界大会で指摘されたこと、建築家（アーキテクト）本来の意味が曖昧模糊としている等）③京都・大阪・神奈川・千葉・北海道の各委員から、各単位会の実状報告（法人格のない単位会では法人化の問題等）。

以上のほかにも対外活動として、日本建築設計事務所協会連合会（以下日事連）、設監連、日本建築家協会、日本建築士会連合会の四会合同会議も着々と行われ、それぞれ成果をあげている。さらに9月の建築防災関係法令研究連絡会議も第9回目を迎え、設監連、日事連、日本建築協会、日本建築学会、日本建築士会連合会、日本設備設計協会、日本建築家協会等の専門委員で構成、主として建設省消防庁との連動について協議した。

### ◆お知らせ◆

公開文化講演会（社団法人高知県建築設計監理協会創立20周年記念）開催

テーマ：「新しい教育の流れと、教育環境」

日時：昭和59年10月30日（火）午後2時～5時

場所：RKCホール（高知市）

講演内容：「都市から学ぶ」黒川紀章（建築家）

「望ましい教師像」森隆夫（教育専門家）



## 塩田平—鎌倉文化の遺跡(三)

## 上田市観光課

塩田平にはまた、国の重要文化財に指定される貴重な仏像が5躯も残っている。このうち鎌倉文化に関わりのある尊像が4躯あり、かつての「信州の学海」を彷彿させてくれる。

これらは西前山地籍の中禅寺と別所温泉の安楽寺に、それぞれ2躯ずつ安置されているものである。それらの仏像についてみておきたい。

## 中禅寺木造薬師如来坐像 (重文)

中禅寺にある薬師堂は、前にもふれたように阿弥



◀ 中禅寺木造薬師如来坐像

陀堂建築の様式をとる中部日本最古の建築遺構として知られるが、本像はその本尊として堂中央の内陣に安置されている。台座にのこの仏像は高さ97.7cm、左手に薬壺を持つので、ひと目で薬師如来であることがわかる。頭部の螺髪(らほつ)のさまや、穏やかで整った面相、均斉のとれた優雅なお姿は、藤原時代に盛行した、いわゆる定朝(じょうちょう)様式の作風を示すものである。しかし台座の敷茄子(しきなす)の天板表裏に墨で描かれた、流鏑馬(やぶさめ)をする武者の戯画などから推定して、実際にはやや下った薬師堂の建立年代とほぼ同じ鎌倉時代初期の地方仏師による秀作とみられている。

なお本像は桂材の寄木造りで、彩色の痕跡がみられず当初から素地のままのお姿であったようである。

## 中禅寺木造神将像 (重文)

逆立つ焰髪と怒号する面相をもつこの像は、わずか68.2cmという小像であるが、各所が力強く表現されているため大きさが感じられるのである。惜しいことに両腕を欠き、また足部の損傷が甚だしいためその全体像がつかめず正確な名称は不明であるという。しかしそのお姿や着衣などから、本尊薬師如来に随侍する十二神将の一つとの見方が一般的である。

寄木造りの本像は頭上の低い髻(もとどり)、素朴な腰のひねりや着衣のさまからみて、古式を感じさせる。その製作年代は本尊と同一時期と推定されている。

## 安楽寺木造惟仙和尚坐像 (重文)

国宝八角三重塔のある安楽寺は当初臨済宗寺院であったが、室町時代末期に曹洞宗に改め現在に至っている。前述したようにこの寺院の開山であった樵

谷惟仙(いせん)は、鎌倉建長寺開山の蘭溪道隆(大覚禅師)と親交のあった名僧として知られるが、本像はこの惟仙和尚の肖像彫刻である。禅宗では高僧の写実的な肖像を多く残しているが、一般にこうしたお姿を頂相(ちんそう)と呼んでいる。

曲鼻(きょくろく)にのった等身大の本像は、肉づきのよいお顔に微笑をたたえ、徳の高い僧の面影を偲ばせる。眼には鎌倉時代から流行した玉眼を入れ、今にも語りかけるような表情をしているのである。また当初は全体に塗装が施されていたとみられ各所にその痕跡が残っている。

この像の胎内から鎌倉時代末期の嘉暦4年(1329年)の墨書銘が発見されたことにより、同時期に製作された像であることが判明した。

## 安楽寺木造恵仁和尚坐像 (重文)

昭和50年安楽寺境内に再建された開山堂に、さきの開山惟仙和尚頂相と並んで安置されている像で、二世幼牛恵仁(えにん)和尚の頂相である。この恵仁は、惟仙が入宋して帰国するときに日本に連れてきて帰化した中国僧であるという。やせ型の面相から鋭い表情が感じられるこの僧は、惟仙和尚とは対照的な性格であったろうと想像することができる。

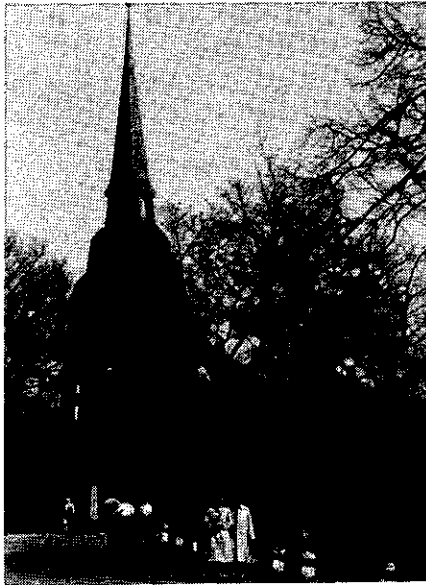
この像もその胎内銘により嘉暦4年に製作されたものであることが判明している。また、惟仙和尚像と作風が同じであることから、おそらく同一作者によるものと思われる。各所にみられる痕跡から、この像もやはり当初は全体に塗装が施されていたようである。

(上田市立博物館学芸員 川上 元)

## スキャンセンに住宅の原点を求めて

小松建築士事務所 小松 蒼 一

ストックホルム市街の北端にあるパレスホテルの前でタクシーを拾った。車はベンツ。運転手は50歳位の男で土地の言葉しか話さない。まず目的地を告げることが先決だ。下調べのとおり「スキャンセン」に頼むと言うと、「スキャンセンか」と問い直された。運転手の発音に習って言い直したところ、彼は大きくなずいてアクセルを一段と踏み込んだ。



町並みにそびえる木造のモスク

グラゲータン通りは幅が広く、2車線の他に3m幅の歩道がついている。4階建てから6階建ての石造建築が並ぶ。石の無表情な壁面を引き立てるように、ベネシヤンレッドのきいたレンガ造りが間に混ざってコントラストが美しい。ふと頭の中をかすめたのは、子供の頃見たドイツ人が造った中国の都市、山東省青島市の町並みの風景だった。実によく似ている。主要な通りからは必ず大型のモスクを持つ寺院が見え北欧の鉛色の空に緑

青色の屋根が美しく栄えている。円型ドーム型、円錐型、角錐型、渦巻き型、ギボシ型等変化があって面白い。

4km程行って海岸に出ると目指す「スキャンセン」が現れる。ここは海に飛び出した中の島のような所で、2km四方位の所を遊園地、船舶博物館、ノルデカ美術館、チボリ公園等々の健全なレジャーランドとして開発してある。日照の少ない北欧では、太陽の光を少しでも多く体に浴びるため屋外活動を盛んに行っているようだ。

スキャンセンにはまた、スウェーデンの住宅の原点である建物群が全国から集められ、年代を追って保存してあるという。ここを訪れたのはその住宅群を見ることがひとつの目的だった。

森林王国スウェーデンの建物はやはり木造校倉造りより始まっていた。材質はモミツガ類で、ノコギリと斧だけで造った素朴な建物にも現代住宅の原点を見い出すことができる。2mを超える長身の人種が使用していたには意外と内法が低い。入口はにじって入るか、またいで入らなければ無理なものが一般的で、内部の床も丸太組で意外と狭い。冬期はたぶん動物の毛皮にくるまれた生活を送っていたのだろう。初期の住宅には開口部はほとんどなく、煙抜きの穴・見張りの穴・出入口・風通し穴等が小さくあいている。

やがて彫刻が柱に現れるようになり、一族の紋様が克明に表現されている。この頃になるとキャンティ架構や妻飾り、棟飾りが現れてくる。

その後建物内部で作業が行われ、家畜も飼育されるようになると、台所・食堂・寝室・家内作業場（冬期が長いので衣類の製作、畜産物の加工等）に使用）が分化してくるのがわかる。屋根は厚板葺から茅葺・厚板こけら葺へと変わり、瓦葺はずっとあとになって現れてくる。

(つづく)



▲柱の彫刻・樓飾りが衰われている

◀一床の紋様とキャンティ工法  
開口部はきわめて小さい



▲三階が住居、階下は家畜小屋  
◀最も初期の住居



▼レンガ・木造茅葺の混構造建築物



# 会員事務所作品紹介

## (有)坂本建築事務所

所長 坂本 三郎

本社 茅野市宮川5425-1

☎0266-72-6128(代)

岡谷事務所 岡谷市南宮2-9941

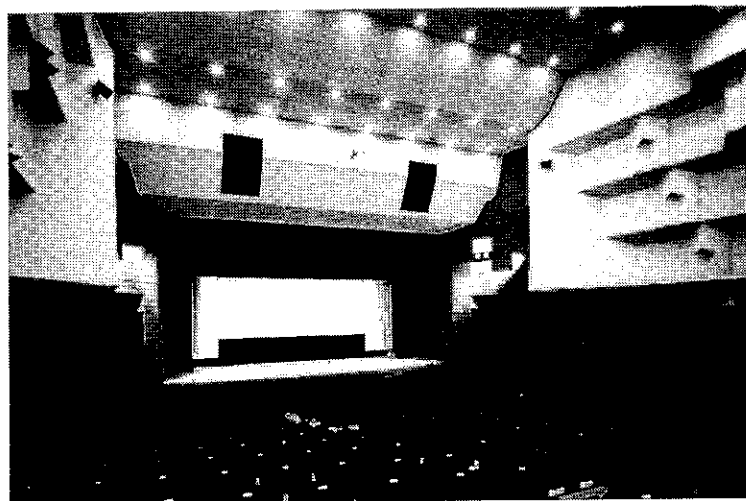
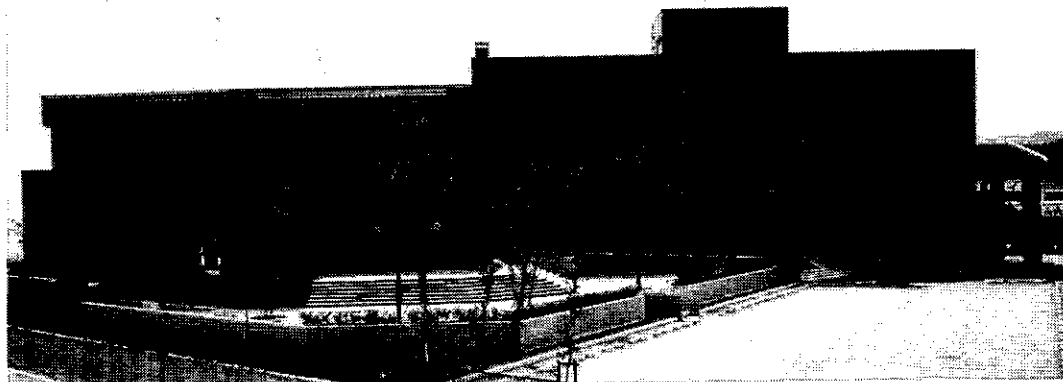
☎0266-22-1785

分室 横浜・甲府

### 長野県婦人総合センター

建設地／岡谷市南宮東 延面積／3,384㎡（RC造  
4階建て）工期／1983年3月～1984年9月

600人収容の多目的ホールを持つホール棟と、各種研修のできるセンター棟の二つの異質な建物間を調和させ、婦人センターの名称が示す様に、建物内外に女性的なイメージの内に簡潔さと格調をもたせた。内部については、婦人主体の主旨のもとに託児室、ホール内母子席など女性側の施設・設備の配慮をし、身障者用エレベーター等を設け車椅子対策も施した（長野県発注）。



▲婦人総合センター全景  
◀六百人収容の多目的ホール





◀清龍山長園寺本堂

## 清龍山長園寺本堂

建設地／茅野市玉川穴山 延面積／294.78㎡（W造平屋建て）工期／1980年5月～1981年8月

今も諏訪の地に伝承される大隅流、または神社仏閣に名建築を残した立川流の技を駆使し設計した作品である。

## 三井不動産中軽井沢建売別荘

建設地／北佐久郡軽井沢町長倉字水垂 延面積／87.78㎡（W造平屋建て）工期／1981年11月～1982年4月

蓼科高原・中軽井沢建売及び個別別荘一連の作品の中の一例である。

敷地が主要幹線沿いにあり角地であるため、シンボリックな外観とした。内部は居間を中心とし吹抜をとり、別荘らしさをだすとともに増築可能であるよう考慮した。



◀三井不動産中軽井沢建売別荘  
▼茅野市総合体育館



## 茅野市総合体育館

建設地／茅野市運動公園内 延面積／7,259㎡（RC造一部S造）工期／1978年12月～1980年7月

敷地は茅野市運動公園内の一角にあり、東側に八ヶ岳連峰を望む緑多い環境にある。敷地との対比を意識して、横に広がりのある建物を計画。内部計画については主競技場・副競技場・管理部門とをはっきり分け、三者を中央ホールでつなぎ、使い易くわかり易い平面とした（茅野市発注）。

# テクニカルシート

## 左官用下塗混和材

### 「セキスイTSサンド」

積水化成品工業株式会社

我が積水化成品工業は昭和49年から発泡スチロールの微細粒を主要骨材とした左官用下塗混和材「セキスイ・ティエスサンド」を販売しており、58年3月期までの累計で500万袋の販売量を達成している。

この「TSサンド」は3～4mmに粉砕した発泡スチロールの微細粒を主要骨材に強力接着剤とつなぎ材（ナイロン繊維）を混合した左官用下塗混和材で、従来のモルタル下塗りに代わる新工法である。従来のコンクリートへのモルタル塗りはセメントの収縮によりモルタル部分に亀裂・はく離が生じやすいがTSサンドモルタルは骨材が発泡スチロールの為、表面が弾力性に富み、コンクリート下地面にかかる力を分散・吸収し亀裂やはく離を防止する。また、発泡スチロールの保水作用と接着剤の働きによってコンクリート地へのセメントの付着力が增强し、均一に粘着する。さらにTSサンドモルタルが塗着した表面は、発泡スチロールの粒が浮き出しザラザラの状態になるので、掃目を入れたのと同じ効果になり手間が省けるほか、比重が従来モルタルの約3分の1と軽いため作業性がよい、などの特徴がある。

施工対象はコンクリート下地のほか押出発泡ポリスチレン（エスレンフォームなど）の打込壁面、ALC板、タイル下地、メタルラスなどにも施工できる。

施工方法は従来のモルタル下塗りと同じでコテ塗りで行うが、コンクリート下地面に水打ちあるいはアクリルエママルジョン系樹脂で下処理する必要がある。セメントとの配合比率は、TSサンド1袋（70ℓ）とセメント1袋（40kg）の割合で配合し、水20～22ℓを加えて混練する。塗り厚は5～7mmでよく従来のセメント下塗り（7～10mm）に比べ薄く塗ることができるのも特徴で、TSサンドとセメント1+1袋の配合で5mm厚塗りの場合15㎡施工できる。

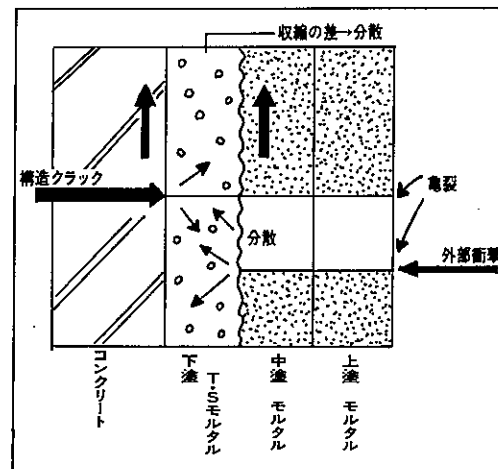
TSサンドの価格は設計で1袋当たり1,700円、ゼネコン価格で1,150円。これにセメントが1袋650円とすると合計材料費は1,800円で、5mm塗厚の場合1㎡当たり120円になる。従来のモルタル下塗りに比べ材料費はやや高いが、TSサンドモルタル工法は現場で塗りやすく、従来の3倍の面積が施工できるので工期が大幅に短縮でき、作業性を考慮すると安くなるという。

需要分野は一般ビル・学校・マンションなどの一般建築物が中心で内壁と外壁の下塗りに使われているが、内壁施工が主体で80%を占める。また民間ビルのほか官公庁建物の施工が多く、例えば筑波学園

都市の学校や郵政ビル、そのほかの公共建物などに数多く採用されている。公団住宅にも現場単位で使用されている。そのほか、戸建て住宅にも使われているが、ほとんどが外壁である。この場合、TSサンドとセメントのほか砂を角スコップ5杯程度混入してラス及びラスカットパネルの上に施工する。姉妹品には、外部用の「ボンモルA」があり好評を得ている。

当社ではこのほか、ネグマット・エスレン畳・エスレンフォーム・パネル・ローディポール・TYKフォームなどを発売している。

## TSサンド工法



## 中空スラブ

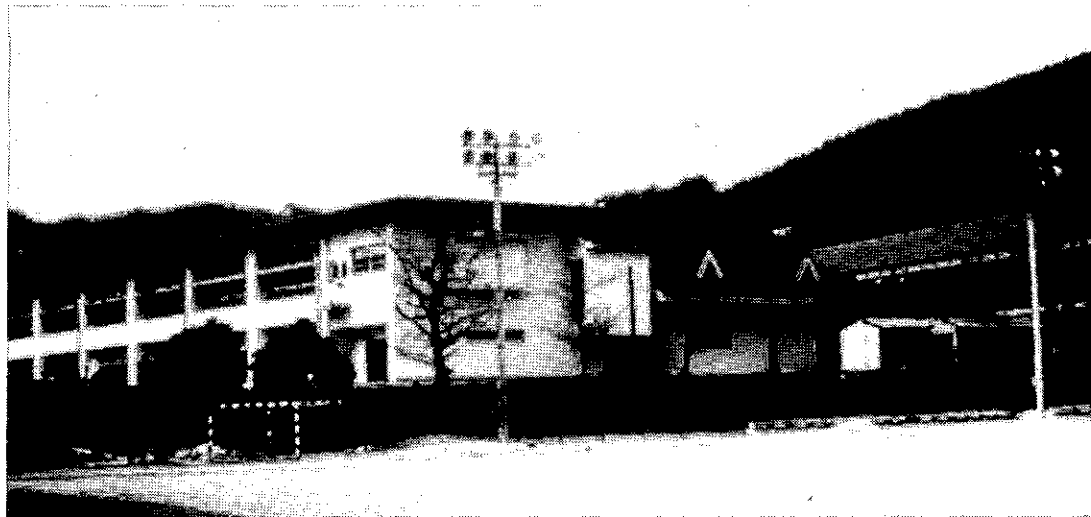
株式会社栗本鐵工所

建築構造のひとつとして「中空スラブ構造」が脚光を浴びている。鉄筋コンクリートスラブに、クリモト・ワインディングパイプを埋めこんで中空部を作り、軽量にした現場打スラブである。

スラブの厚さを、両端支持で $1x/32$ 以上、片端支持で $1x/10$ 以上とすると、相当長いスパン（実施例では最大23m）のスラブが経済的にできあがり、小梁がはぶける。中空スラブは学校建築を中心に市庁舎・一般ビル・倉庫・マンション・立体駐車場など広範囲に設計に取り入れられ、特に長野県全域ではかなり多くの建物がこのスラブで設計されている。

ここに紹介するのは愛媛県内子町立内子小学校。同小学校は、旧校舎のイメージを残した明るくモダンな校舎の広いワークスペースと、オープン化に備えた大空間構成が特徴である。またRC造に不可欠な騒音を45cm厚の中空スラブ構造の床と全面カーペットで防ぐなど、行き届いた配慮がなされている。これらを予算の枠内で実現させた町教育委員会のコーディネーターとしての努力は大きい。

教育県長野にもたくさんの優れた学校があるが、



▲内子町立内子小学校

今後もこの「中空スラブ」で素晴らしい校舎が建てば嬉しい。

栗本鐵工所では振動・衝撃・たわみ等の実験、実測データを取り揃え、コンピュータによるスラブ応力の計算・構造計画・構造計算の協力体制を確立した。今後とも多くの方の利用を期待している。



▶ワインディングパイプの取り付け作業

### 住宅コンテスト実施 更埴市のHOPE計画

「良好な住宅市街地の形成と地域住宅産業の振興」を目指す建設省の地域住宅計画（HOPE計画）が更埴市で進められている。

同市では、今年4月の計画策定地指定から「更埴市地域住宅計画策定委員会」を設置。地域イメージ調査・家屋調査等を行って取り組み課題を検討してきた。調査を委託している大野建築アトリエ（東京都）の報告によると、良好な市街地の形成のためには建築協定と緑化協定等宅地開発指導要項を検討するとともに、モデル住宅・雇用促進住宅の建設が必要としている。同委員会では、調査報告をもとにより具体的な計画をたてていく考え。

同委員会ではHOPE計画推進の一環として、『木造住宅コンテスト』を年度内に実施する計画もある。実施要領は決まっていないが、更埴市に事務所を持つ建築設計事務所、大工・工務店を対象に戸建木造住宅を募集する。応募期間は12月3日から60年1月19日の予定。なお同計画の指定地区は全国で29ヵ所。

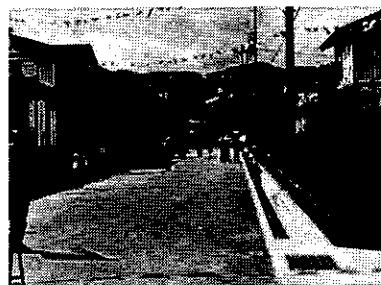
### 信州型モデル住宅展示会 長野市御堂沖団地で

県と県住宅供給公社は、長野市御堂沖に完成した信州型モデル住宅六棟の『木造住宅展示会』を、10月13日から11月10日までの27日間にわたって実施し

ている。

展示フェアは、木造住宅振興モデル事業で実施した住宅設計コンペの当選作品をより多くの県民にみてもらおうと、県・県住宅公社を中心に建設業協会など関係団体担当者などが常駐、見学者にモデル住宅を紹介する。

完成した信州型モデル住宅は、いずれも800万円台（100㎡換算価格）の建築費で、ローコスト条件をクリアー。審査を行った大野勝彦氏は「木造住宅振興モデル事業を実施した全国の地域の中で木造らしいのを造ったのは長野が初めて。外観は地域型の伝統を生かし真壁が強調されているが、内部はバリエーションをもたせている。住宅部品・建材については、当選したメーカーに供給方法・施工上の苦心などを報告してもらい、地域型部品の実験成果をみる考え」と話している。



長野市御堂沖に完成した信州型モデル住宅。

### 融雪装置に県単融資も検討 県住宅部に融雪対策研究会

県住宅部は先程、県営住宅県町団地の融雪調査に

よって中高層住宅に一応の成果を得たことから、一般住宅への適用を検討する「融雪住宅対策研究会」を同部内に設置、融雪住宅対策に積極的に取り組む考えだ。

同委員会では、60年度当初に「多雪地域のためのシンポジウム（仮称）を開催。多雪地域における住宅と住宅設備のありかた、今後の方向などをさぐる」とともに同年度中には信州大学などの研究機関に、地域に合った融雪住宅のための研究を委託。「信州型融雪住宅」の開発を目指す考えだ。このため、今年度中に在来の融雪システムについて情報集収・調査を行い類型化するとともに、一般に解りやすくまとめる作業を行う。同部では「融雪装置設置に対する県単融資も早ければ62年から実施に踏み切る」としており、価格の面からも普及が難しかった一般住宅への融資装置導入に大きく一歩前進したことになる。

### 255人が関門を突破 木造建築士製図試験

県住宅部は24日、59年度2級建築士と木造建築士の製図試験合格者を発表した。それによると「2級」では受験者数432人のうち240人が合格。合格率は55.6%と、昨年の57.3%を下回った。

また「木造」では、613人の受験者のうち255人（41.6%）が合格、初の木造建築士が誕生することになった。

※ずいひつ

# 「さわやか信州」

神津 善行

日本で現在使用されているドレミファソラシドの音階を、初めて外国からもってきたのは伊沢修二・神津専三郎の両氏である。

伊沢氏は伊那、神津氏は佐久の出身であるが、国の音楽取り調べ掛かりとして渡航し、これを日本に定着させたのである。それ故に長野県人の音楽に対する貢献は、大変なものといえる。しかしこれを知る長野県人は少ないし、まして自慢する人などはまず居ない。

もしこれが他県であったなら、様々なPRに利用したに違いない。これを奥床しいとするか、宣伝下手と考えるかは自由だが、「それで良いのだ」と常に学者のようにかまえているのが、どうも長野県人の特長のようである。

もちろん小生も「それでよいのだ」の一派であるが、現代PR競争に立ち遅れることは確かである。だが、あえて小生はその県民性を誇りとしている。そんな県が一つぐらいなければ、静かな古さとは日本から無くなってしまうと思うからである。

さわやか信州とは、実は土地のことではなく、県民のことを言うのかも知れない。

(こうず・よしゆき/作曲家)



## 会務報告

8月 24日＝第2回理事会（長野市「ホテル信濃路」）。議題は①設監連報告②設計入札問題検討委員会からのアンケート調査依頼に関する件について③各部会活動について④賛助会員増加について⑤会員増強について⑥事務局人事について⑦その他。

9月 19日＝第2回公益広報委員会（設計健保会館）。尾島理事が出席。議題は①文化講演会について②設監連の御案内について③対内的広報について④その他。22日＝第1回会員所員部会（松本市「グリーンホテル」）。議題は①正副部会長選出②運営方針③その他。

## 新入賛助会員の紹介

◎サンエイ㈱ 代表取締役＝横山有之

〒380 長野市上高田1260

（どうぞよろしくお願いたします。）

## [正会員名簿]

事務所名	代表者名	所在地	電話番号
飯島一級建築士事務所	飯島和夫	〒390-03 松本市大字岡田松岡25-12	(0263) 46-2268
㈱伊藤建築設計事務所	伊藤宗春	〒390 松本市城西1-8-19	(0263) 32-8200
㈱エア・ハイツ設計事務所	斉藤英彦	〒385 佐久市大字猿久保780-6	(02676) 8-2311
尾島建築事務所	尾島正吉	〒386 上田市踏入2-11-8	(0268) 22-0645
㈱桂建築設計事務所	南島宗市	〒395 飯田市桜町1-41	(0265) 22-7234
計画工房都市建築設計事務所	佐藤友治	〒380 長野市大字上千歳町1413	(0262) 34-2501
小松一級建築士事務所	小松蒼一	〒390 松本市開智2-1-12	(0263) 35-5665
㈱坂本建築事務所	坂本三郎	〒391 茅野市宮川5425-1	(0266) 72-6128
桜井三朗一級建築士事務所	桜井三朗	〒390 松本市城西1-9-15	(0263) 33-2576
㈱城取建築設計事務所	城取義直	〒396 伊那市大字伊那5561	(02657) 2-7271
㈱マルタ建築事務所長野出張所	須田考雄	〒380 長野市県町459 旭町ビル	(0262) 32-1616
㈱宮本忠長建築設計事務所	宮本忠長	〒380 長野市柳原1875-1	(0262) 41-5510

## 編集室から

山には雪が降り、紅葉がだんだん下って平地にまで達し、秋の深まりを身近に感じる季節になった。自然の偉大な営みがひしひしと伝わってくるようである。

この設計監理協会にも所員委員会が発足し、本来

の姿が形成されつつあることは大変喜ばしい。今後は会員拡張運動を展開して、よりいっそう会の充実を図りたいものだ。とりあえず所員委員会にもこの機関誌の専用ページを受け持ってもらい、若い活力を紙面に反映させていってほしいと思っている。

長野県建築設計監理協会会報第8号

昭和59年10月27日発行

編集人／小松蒼一 発行人／宮本忠長

発行所 長野県建築設計監理協会

印刷 長野県建設工業新聞社



豊富な経験

確かな技術で


責任施工

(総合建築防水)

坂田工業株式会社

長野市妻科434  
TEL 0262-34-3168(代)

アルミサッシュ、カーテンウォール、  
型鋼カーテンウォールの総合メーカー

 昭和三鋼機株式会社  
新潟営業所

新潟市笹口2丁目7番16号(和田ビル)  
TEL 0252-41-3125  
本社 東京都板橋区前野町6丁目1番10号  
TEL 03-969-1101

# 床暖房システム 融雪システム

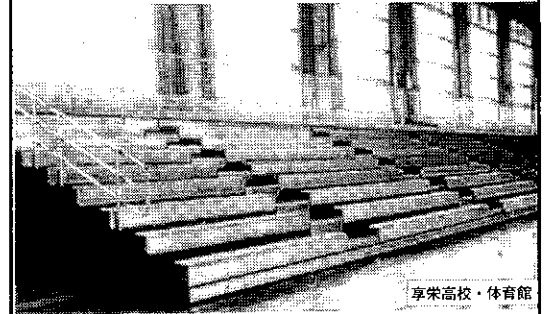
電気、温水による床暖房や屋根、道路の融雪システムにより冬の快適ライフをお届けします。

快適な生活環境づくりにとりくむ

## 古河電工

本社 東京都千代田区丸の内2-6-1 ☎(03)286-3480  
名古屋支店 名古屋市中区東横2-22-18 ☎(052)931-8871  
大阪/九州/広島/東北/札幌/高松/富山/浜松/豊田/沖縄

KOKUYO



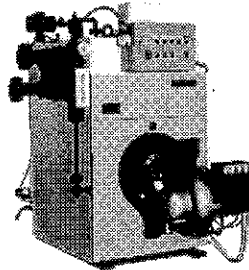
ボタン操作1つでスペースの多目的  
利用が容易に

**ココヨ**  
移動観覧席

ココヨ株式会社 ☎537 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

優れた寿命、性能、経済性


鋳鉄製 **前田真空式温水ヒータ**



MFV シリーズ

- 省エネルギー
- 省力
- 省スペース

70余年の伝統が  
生きています。

 株式会社 前田鉄工所

取締役社長 前田 市也

本社・工場 長野市吉田4丁目14-8 ☎(0262)43-0261  
営業所 東京、大阪、名古屋、札幌、仙台、広島、長野



長野県建築設計監理協会